

第2回 笑顔あふれる保育資質向上研修会

令和6年1月29日に桜が丘幼稚園で第2回目の笑顔あふれる保育資質向上研修会が行われました。石原主任教諭に保育を公開していただき、若手教諭が子どもの姿を見とる力や、環境構成・援助について、実際の保育から学ぶことができました。

保育参観



登園時は、元気なあいさつと共に「氷できているかな？」と駆け寄り、「こっちもできてる！」「見て！」と盛り上がっていました。たらいやバケツに水を張って作った氷を砕いて、「氷のアスレチックみたい！」と発想豊かな思いを伝える子どもたちに、「面白そうだね」と共感しながら受け止められていました。

就学前のこの時期は、身の回りのことはおおよそ自分でできるようになっているので、保育室前の園庭で遊びながら片付けをしている子どもの様子も見守られていました。保護者からの体調面等の連絡も受け、安心して1日が始まります。

大縄遊びやマラソン・体操等、寒くても体を動かせる遊びが用意されており、体が温まると自分で上着を脱いで調節する姿が見られました。マラソンでは子どもの様子を見ながら距離を調節し、個々のペースに合わせて一緒に走る細やかな配慮もされていました。

ドッジボールのコートのラインを引く場面では、真ん中の線はどこに引いたらよいか、数を数えながら端から歩いて決めていました。自分たちで遊びの準備も進められるようにじっくり時間を設けられており、ルールの確認だけでなく、一人一人の思いを聞いて共有し、「どうしたらもっと楽しくなるか、また考えてみようね。」と、自分たちで遊びを考えたり、工夫したりする面白さを味わえるように、声を掛けられていました。



歩数を数えながら真ん中を探すよ

クラス活動では、二学期のお店屋さんごっこがレストランごっこに発展し、ごちそうや冷蔵庫など、遊びに必要なものを考えて、グループの友達と一緒に相談しながら作っていました。

いろいろな素材の中から選んで工夫して作ることができるように準備をされ、作りたい物のイメージを友達同士で伝え合えるようにさりげなく声を掛ける細やかな配慮もされており、若手の先生たちは少しでも多く学ぼうとメモを取られていました。



協議

① 鷹取指導主事による「すぐに保育に使える手遊び」紹介
「うどんこネコネ」（作詞作曲：二本松はじめ）

異年齢児 親子、誰とでも楽しめる触れ合い遊びに笑顔が広がりました。

② 協議

参観者が教師の援助や環境構成を見とる力がつくように指導案をあえて空白にしておき、気づいたことを発言し合いました。その後、石原主任教諭の思いを聞き、鷹取指導主事から指導助言を受けながら、保育の意図を共有しました。また、レストランごっこの場面をみて、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿をもとに気づいたことを伝え合いました。

子どもがしたいことを実現できるように、耳を傾けて皆と共有する。⇒共通の目的に向かって取り組む楽しさ

○「今日は～をしよう」と目的をもっているから、準備がすぐに始められる。
どんな物をどうやって作るか書いた紙を見ながら役割分担をして進める。

健康な心と体、自立心、協同性
文字への関心、言葉による伝え合い

○レストランにはどういう物があるか、知っている情報を伝え合いながら作る。
異年齢の友達を招待して喜んでもらえるようにわくわくしながら作っている。

社会生活とのかかわり

○野菜（ポテトやブロッコリー等）の形や大きさを再現して
立体的になるように工夫して作る。

数量・図形への関心・感覚、豊かな感性と表現

○大小の牛乳パックを切ったり組み合わせたりして、
イメージしたものを作る。

自然とのかかわり
思考力の芽生え

○材料や用具を大切に片付ける。

道徳性・規範意識の芽生え



第2回の研修だということもあり、参観された先生は気づいたことを積極的に発言できるようになっていました。

10の姿を視点にした協議の中で、石原主任教諭より、「子どもたちが考えてつくったもの全てが豊かな表現」という言葉がありました。いつも子どもの心を大切にして配慮されていることが伝わってきました。子どもたちとかかわる仕事ができる幸せを感じられた、あたたかい研修でした。